



国際子ども図書館 の 窓

子どもの本は
世界をつなぎ、
未来を拓く！

第 18 号

2018.10

表紙デザイン：熊谷博人氏

はじめに



今年も『国際子ども図書館の窓』を皆様にお届けいたします。第18号では、平成29年4月から平成30年3月までの活動を御紹介します。

この間は、平成27年から平成28年にかけて行った施設増改築等のリニューアル後に開始した新しいサービスや閲覧室の運営がようやく軌道に乗り、少しだけ新しい国際子ども図書館の姿をお目につけられた時期だったのではないかと考えています。私たちも手探りで始めた新しいサービスをどのように評価していただけるのか、期待と不安で一杯でした。

幸いなことに、1年間の利用者数は約14万人となり、その前の年から2万人増えました。各種の講演会や研修等へも引き続き多くの皆様に御参加いただいています。心より御礼申し上げます。

リニューアル後に開始した新サービスの柱の一つが中高生世代向けのサービスの拡充です。「全国学力・学習状況調査」、「学校読書調査」等の各種調査の結果が示すとおり、この年代では学年が上がるほど読書時間や読書冊数が減少する傾向にあり、特に高校生の読書離れの深刻さが指摘されています。少しでも中高生に読書の楽しさや知の奥深さを伝え、図書館に足を運んでもらうきっかけとなるよう、平成28年2月に中高生向けの「調べものの部屋」を開室し、同年4月からは「調べもの体験プログラム」を始めました。中高生向けサービスは、年少者向けの「おはなし会」のような定番のメソッドが必ずしも確立しておらず、どの図書館や学校現場でも様々な工夫・努力を重ねておられることと思います。国際子ども図書館では、国立図書館として、公共図書館や学校図書館とは違った立場から、全国の学校の教員や司書の方々の御参考にしていただけるモデルをお示しできないかと考え、図書館での調べものの有用性や魅力を中高生に体験してもらうプログラムを組み立てました。開始以来多くの学校に御関心を持っていただき、平成29年度には、34回実施して計504人の中高生にプログラムを体験してもらうことができました。ありがたいことに、今のところ好意的な御評価をいただいておりますが、まだ完成とはいいい難く日々試行錯誤しながら一層の改善を目指して取り組んでいます。ブラッシュアップのために、より多くの方から忌憚のない御意見をいただければと思います。

この『国際子ども図書館の窓』は、以上のような取組も含めた昨年度の国際子ども図書館の活動を御報告するものです。国際子ども図書館は、子どもに対してサービスを行うだけでなく、児童サービス従事者等の「子どもに本を手渡す大人」に対してもサービスを提供しています。また、「国際」をその名に冠する国立図書館として、日本全国はもちろん、世界に対してサービスや情報発信を行っています。こうした幅広い活動全体を御覧いただければ嬉しく思います。

もとより不十分な点や未熟な点等々もあろうかと存じますが、サービス・事業の改善のため、利用者の皆様から、多くの御意見、御感想をお寄せいただければ幸いです。

今後とも皆様の御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

平成30年10月

国立国会図書館国際子ども図書館長 寺倉 憲一

<目次>

【はじめに】

【活動報告】

- 1 児童書専門図書館としての活動
 - 1.1 資料・情報センターとしての機能
 - 1.2 子どもの読書活動推進支援
 - 1.3 国際的な交流活動
- 2 子どもと本のふれあいの場としての活動
 - 2.1 子どもの成長段階に応じた館内サービス
 - 2.2 子どものための連携イベント
 - 2.3 子ども向けの情報発信
- 3 子どもの本のミュージアムとしての活動
 - 3.1 館内展示
 - 3.2 電子展示会
- 4 内外諸機関との連携・協力、広報活動等
 - 4.1 講演会
 - 4.2 広報活動
 - 4.3 関係者会議
 - 4.4 見学・案内
 - 4.5 刊行物

【平成29年4月から30年3月までの主な出来事】

【数字で見る！国際子ども図書館】

【国際子ども図書館利用案内】

活動報告

(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月)

1. 児童書専門図書館としての活動

国際子ども図書館は、児童書の専門図書館として国内外の児童書及び関連資料を広範に収集・保存・提供している。また、「[国立国会図書館国際子ども図書館 子どもの読書活動推進支援計画 2015](#)」に基づき、子どもの読書に関する情報発信、人材育成及びネットワーク構築、情報発信等を行っている。平成 29 年度は、オーストラリア・ニュージーランドの児童書の重点的な収集を行ったほか、児童書研究資料室において平成 30 年 1 月から国立国会図書館（国際子ども図書館を含む）の資料を検索・利用するための新しいサービス「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（国立国会図書館オンライン）」の提供を開始した。

1.1 資料・情報センターとしての機能

(1) 蔵書構築

○資料の収集

国内刊行児童書を納本制度により収集したほか、未収の国内刊行児童書（大日本雄辯會講談社（編）『曾我兄弟（少年講談）』等）、国内外の児童書関連資料、児童サービス用資料、学校図書館セット貸出用資料、主要児童雑誌の欠号等を収集した。

外国刊行児童書については、*Mother Goose in prose*（L. Frank Baum 著）などを含む欧米や中国、韓国等の資料のほか、平成 28 年度に作成した選書用ブックリストに基づくオーストラリア・ニュージーランドの児童書を重点的に収集した。また、平成 29 年度は西アフリカ（フランス語公用語圏）の児童書・関連書について村田はるせ氏に調査及び選書用ブックリストの作成を依頼した。調査報告とブックリストは国際子ども図書館ホームページで公開している（<http://www.kodomo.go.jp/info/foreign/index.html>）。また、ベトナム国立図書館との協力協定による児童書の収集を行った。加えて、ポロニーヤ国際児童図書展事務局からポロニーヤ国際児童図書賞応募作品 440 冊の寄贈を受けた。

今年度の増加数については、日本語の図書が約 8,500 点、外国語の図書が約 3,500 点、国内雑誌が約 30 タイトル、非図書資料が約 3,000 点であった。

なお、資料の破損・劣化対策として、年間 180 冊を補修した。

○資料のデジタル化

児童書のデジタル化については、主として 1968 年以前に刊行された国内刊行図書及び 1970 年までに刊行された国内雑誌がデジタル化済みである。今年度は 1970 年以前に刊行された国内雑誌の欠号補充分約 70 タイトル約 300 冊分をデジタル化した。

○児童用点字・大活字資料の配置

平成 28 年度に策定された国立国会図書館の資料の収蔵方針に基づき、点字・大活字資料のうち児童用資料に該当する資料を平成 29 年 4 月から国際子ども図書館に配置することとなり、7 月から児童書研究資料室において新着資料の利用提供を開始した。また、これまで国立国会図書館東京本館で提供していた児童用点字図書 1,226 件（2,302 冊）、児童用大活字図書 66 件（102 冊）、点字雑誌 2 タイトル（222 冊）についても、7 月から順次、国際子ども図書館へ移送し、利用提供を開始した。

(2) 情報サービス

○ホームページリニューアル

平成 29 年度中、ユーザビリティ・アクセシビリティに配慮し、デザインや構造をより使いやすく変更し、スマートフォンやタブレットからでも見やすくするため、国立国会図書館ホームページ及び国際子ども

図書館ホームページのリニューアルを行い、平成30年2月12日に公開した。

○国立国会図書館サーチにおける児童書総合目録の提供

国立国会図書館サーチを通じ、国立国会図書館（国際子ども図書館を含む。）、大阪府立中央図書館国際児童文学館、神奈川近代文学館、三康文化研究所附属三康図書館、日本近代文学館、東京都立多摩図書館、梅花女子大学図書館、白百合女子大学図書館及び白百合女子大学児童文化研究センターが所蔵する児童書・関連資料の所蔵情報を一元的に検索できる児童書総合目録を提供している。児童書に限定した検索、都道府県立及び政令指定都市立図書館蔵書・各種デジタル資料・レファレンス情報等の同時検索が可能である。平成29年度は、東京都立多摩図書館のデータ更新を行った。

※<http://iss.ndl.go.jp/>

○国立国会図書館オンラインの提供開始

平成30年1月5日から、国際子ども図書館を含む国立国会図書館の資料を検索・利用するための新しいサービス「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（国立国会図書館オンライン）」の提供を開始した。



○国立国会図書館検索・申込オンラインサービスへの目録データ追加等

国際子ども図書館が整理したアジア諸言語の新規受入児童書資料（中国語 500 件、朝鮮語 97 件、タイ語 80 件、トルコ語 78 件、ペルシア語 19 件、キルギス語 7 件、ヘブライ語 4 件、アルメニア語 4 件、アゼルバイジャン語 1 件）の目録データを追加したほか、児童書カード目録等からの遡及入力（タイ語等 641 件）を行った。

児童書専門付加情報として、日本図書館協会から提供された『選定図書目録』平成27年及び28年分の内容解説データ及び日本児童図書出版協会から提供された『児童図書総目録』の内容解説データ、計3,672件を投入した。なお、日本図書館協会の選定図書目録事業の終了に伴い、同協会からのデータ提供は今回投入分で終了した。

※<https://ndlonline.ndl.go.jp/>

○国立国会図書館リサーチ・ナビへの「調べ案内」新規作成・更新

国際子ども図書館が所蔵する資料に関する「調べ案内」の新規作成を1件、更新を7件、削除（ホームページ掲載の同内容ページとの統廃合）を9件行った。

※<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

○レファレンス協同データベースへの事例提供

国際子ども図書館が回答したレファレンス事例74件を追加し、平成30年3月末現在、599件を提供している。

※<http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>

○外国語に翻訳刊行された日本の児童書情報

日本の児童書の海外における翻訳出版情報のデータベースである。国立国会図書館職員が調べものに有用であると判断した各種情報源を国立国会図書館ホームページで紹介するリサーチ・ナビ内で提供している。平成29年度は80件のデータを追加し、平成30年3月末現在の収録データは4,762件となった。

※<http://rnavi.ndl.go.jp/childbook/honyaku.php>

(3) 利用者サービス

○来館利用サービス

児童書研究資料室には、約4万冊の児童書・児童文学に関する参考図書・研究書等を排架している。また、利用者用端末を配備し、各端末から資料検索、書庫資料の閲覧申込み・複写申込書の作成のほか、デジタル化資料等電子情報の閲覧が可能である。平成29年度の児童書研究資料室の利用者数は10,098名、閲覧点数は24,430点、複写申込は5,213件であった。

○遠隔サービス

国際子ども図書館所蔵資料の遠隔複写、図書館間貸出しの申込み及び蔵書に関する問合せに回答するレファレンスサービスを行っている。回答事例の一部はレファレンス協同データベースで紹介している。平成 29 年度の遠隔複写申込みは 1,252 件、図書館間貸出数は 221 点、文書によるレファレンス回答処理は 103 件、電話によるレファレンス回答処理は 1,611 件である。

また、IFLA（国際図書館連盟）の「絵本で世界を知ろうプロジェクト」から寄贈された世界 43 カ国・地域の絵本 325 冊及び付属資料を、展示会セット「絵本で知る世界の国々—IFLA からのおくりもの」として、国内及びアジア・オセアニア地域の図書館等に貸し出している。平成 29 年度は国内 4 機関に貸し出した。

(4) 国会サービス及び行政・司法の各部門に対するサービス

○国会サービス

調査及び立法考査局を窓口として、資料の閲覧・貸出し・複写・レファレンス等を行っている。平成 29 年度は国会サービスのため所蔵資料 177 点を出納した。

○行政・司法の各部門に対するサービス

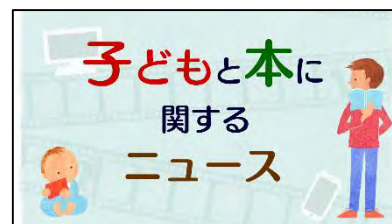
国際子ども図書館では東京本館・関西館と同様に、各府省庁及び最高裁判所に設置されている支部図書館 27 館に対して、資料の貸出し等を行っている。平成 29 年度の相互貸出数は 58 点である。

1.2 子どもの読書活動推進支援

(1) 子どもの読書に関する情報発信の強化

○「子どもと本に関するニュース」

ホームページの「子どもと本に関するニュース」で、国内外の主な児童文学賞、子どもの読書と図書館に関するニュース等を紹介している。平成 29 年度には国内 67 件、国外 44 件、合わせて計 111 件の情報を掲載した。
※<http://www.kodomo.go.jp/info/index.html>



(2) 人材育成支援

①国際子ども図書館が行った研修

○平成 29 年度図書館情報学実習生の受入れ

関西館図書館協力課が公募により選考した、東洋大学と中央大学の実習生計 2 名を 9 月 7 日から 14 日にかけて受け入れ、カウンター業務、選書、装備・排架、レファレンスサービス等の実習を行った。

○児童文学連続講座「絵本はアート、絵本はメディア」

11 月 6 日、7 日に児童サービスに従事する図書館員等を対象に、児童文学に関する知識の醸成に資することを目的として実施し、95 名が受講、89 名が修了した。講義の演題及び講師は次のとおりである。

- 絵本を一冊まるごとウォッチング

石井 光恵（日本女子大学教授、国立国会図書館客員調査員）

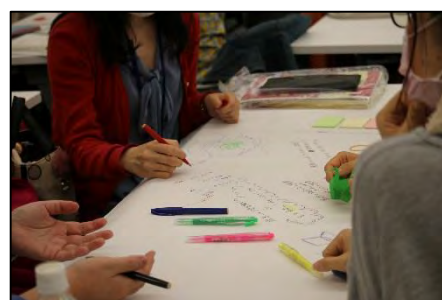
- 絵本はアート

中川 素子（文教大学名誉教授）

- 絵本とグラフィック・デザイナーの絵本を中心にー

今井 良朗（武蔵野美術大学名誉教授）

- 絵本というメディアの可能性



参加者交流（11/7）の様子

松本 猛（絵本学会会長、ちひろ美術館常任顧問、横浜美術大学客員教授）

- 展示会「日本の絵本の歩み—絵巻から現代の絵本まで」の紹介

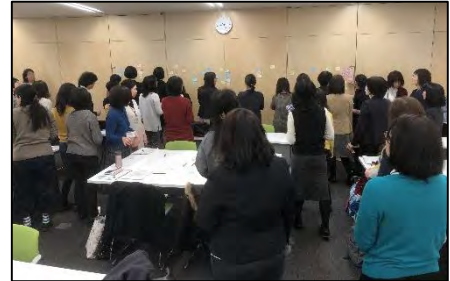
東川 梓（資料情報課展示係長）

※<http://www.kodomo.go.jp/study/chair/outline/29.html>

○児童サービス研究交流会

3月12日に児童サービス関係者が一堂に会して事例紹介・意見交換・相互交流できる場を提供することを目的として、「障害のある子どもたちへの図書館サービス—障壁をとりはらうために」をテーマに児童サービス研究交流会を実施し、45名が参加した。内容は次のとおりである。

- 「国際子ども図書館の資料提供サービス」
高野 哲（資料情報課情報サービス係長）
- 「国立国会図書館の提供する障害者向けサービス」
藤原 誠（図書館協力課障害者図書館協力係）
- 館内見学（企画協力課）
- 基調講演「図書館サービスを障害のある子どもたちへ届けるために」
野口 武悟（専修大学文学部教授）
- 実践報告①「真の連携の姿を模索する—特別支援学校の図書館に対するサポート」
小林 隆志（鳥取県立図書館支援協力課長）
- 実践報告②「障害児福祉との連携協力事業について—墨田区の試み」
太田 千亜生（墨田区立ひきふね図書館障害者サービス担当）
- 国際子ども図書館実践報告「国際子ども図書館の特別支援学校の見学対応について」
松戸 沙耶佳（児童サービス課児童サービス運営係）
- 参加者による交流及び講師コメント



参加者交流の様子

○講師派遣

平成29年度に、公共図書館、図書館関係団体等の依頼により、3件の研究会・研修会等の講師として、延べ3名の職員を派遣した。

派遣先：岐阜女子大学、宮崎県立図書館、兵庫県立図書館

②他部局・他機関との連携で行った研修等

○レファレンス協同データベース事業フォーラム

12月14日、関西館が例年開催している、レファレンス協同データベース事業に関する意見交換・相互交流の場「第14回レファレンス協同データベース事業フォーラム」を「中高生向けレファレンスサービスとレファ協」をテーマに国際子ども図書館において開催し、103名が参加した。



レファレンス協同データベース事業フォーラムの様子

○児童図書館員養成専門講座

日本図書館協会が公共図書館などの専門職員を対象に実施している、第37回児童図書館員養成専門講座の1科目「児童資料（1） 絵本」を同協会と共催で9月26日に実施し、13名が受講した。講師は依田和子氏（よこはまライブラリーフレンド）であった。

(3) 調査研究

○中高生のメディア利活用に係る説明聴取会

平成30年3月15日に、当館の今後の中高生向けサービスに資するため、村木美紀氏（同志社女子大学学芸学部准教授）から、中高生の読書活動及び情報探索行動の特徴、中高生のメディア利活用の実態、中高生を対象とした図書館サービスの最新動向及び課題について説明を聴取した。

(4) 学校図書館支援

○学校図書館セット貸出し

「国際理解」をテーマとする児童書等約40冊を1セットとし、全国の学校図書館へ貸し出している。国際子ども図書館ホームページに、全17種類の各セットの資料のリストと解題のほか、セットを使った学校図書館活動や学習・読書活動の事例を掲載している。平成29年度は188校に計7,862点の資料を貸し出した。子どもたちが次の利用校に推薦する本を紹介する読書郵便は、72校が参加した。

※<http://www.kodomo.go.jp/promote/activity/rent/index.html>

1.3 国際的な交流活動

○IBBY アジア・オセアニア地域大会への職員派遣

5月9日から12日にかけて、バンコクで開催された第3回国際児童図書評議会（IBBY）アジア・オセアニア地域大会に資料情報課職員1名が参加し、分科会において「デジタル時代における国際子ども図書館の取組」について発表した。



開会式の様子

○IFLA 大会への職員派遣

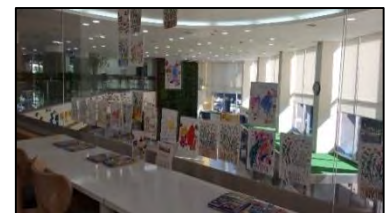
8月19日から23日にかけて、ヴロツワフ（ポーランド）で開催された世界図書館情報会議（WLIC）：第83回国際図書館連盟（IFLA）年次大会に、企画協力課職員1名が、児童・ヤングアダルト図書館分科会常任委員として参加し、同分科会のプロジェクト等について議論した。



8/19 IFLA 児童・ヤングアダルト図書館分科会常任委員会

○日韓業務交流

9月18日から23日にかけて、第20回日韓業務交流に児童サービス課職員1名が参加し、21日に韓国子ども青少年図書館での子ども図書館交流において「児童・青少年向けサービスの現状と課題：子ども・青少年読書振興のための関連団体等との協業事例を中心に」をテーマとした報告・懇談を行った。



国立子ども青少年図書館 展示室前

○ボローニャ・ブックフェアへの職員派遣

平成30年3月26日から29日にかけて開催された、世界最大の児童書見本市であるボローニャ・ブックフェア（Bologna Children's Book Fair）に資料情報課職員1名を派遣した。各国の最新の児童書出版情報を収集したほか、会期中に行われる授賞式、講演会、ワークショップ等に参加し、関係者との交流を図った。また、ボローニャ・ブックフェア事務局の資料寄贈担当者を表敬訪問した。



国際アンデルセン賞受賞者発表

2. 子どもと本のふれあいの場としての活動

子どもたちが図書館や読書に親しむきっかけとなるよう、国内外の児童書を提供すると共に、各種イベントや見学、情報提供等を行った。

2.1 子どもの成長段階に応じた館内サービス

子どものへや・世界を知るへやは、主に小学生以下を対象とする絵本、読み物、知識の本など約1万1千冊を開架し、年齢に応じた本の紹介等を行っている。

中高生向けの調べものの部屋では、各種事典や調べもの体験プログラムで利用する資料等を含め、調査やレポート作成に役立つ本を約1万冊開架している。

○子どものためのおはなし会

毎週土曜日の午後2時（4歳～小学1年生）及び午後3時（小学2年生以上）から実施した（夏休み期間を除く）。職員が、ストーリーテリングと絵本の読み聞かせ等を行っている。平成29年度は計84回実施し、550名が参加した。

○ちいさな子どものためのわらべうたと絵本の会

6か月以上4歳未満の子どもと保護者を対象として、8月を除く毎月第2水曜日午前11時から実施した。職員が、参加者の年齢に合わせ、絵本の読み聞かせとわらべうたを組み合わせで行っている。平成29年度は合計11回実施し、160組322名が参加した。

○子どものためのおたのしみ会

通常のおはなし会の特別版として、5月5日に、大型絵本の読み聞かせを含む「こどもの日おたのしみ会」を2回実施し、計67名が参加した。11月19日には、上野動物園の協力により「冬のおたのしみ会」を実施し、51名が参加した。「冬のおたのしみ会」は、テーマを「ヤギ」とし、当館職員がヤギを題材とした絵本の読み聞かせ・ストーリーテリングを行った後、上野動物園の飼育員が写真や動画、ヤギのエサなどを見せながらヤギの生態について、クイズを交えて解説した。また、当館が作成したヤギに関するブックリストを、配布した。



こどもの日おたのしみ会



冬のおたのしみ会

○夏休み読書キャンペーン

夏休みに子どもが様々な本に出会うための企画として、本を読んで問題に答える、初級編・中級編・上級編の3種類のクイズを用意し、子どものへやで実施した。2,054名の子どもが参加した。



クイズの解答と全問正解者へのプレゼントしおり

○夏休み親子図書館見学ツアー



目録カードボックス前での説明の様子

7月27日、8月3日、10日、17日、24日に午後2時から約45分間、小学生とその保護者向けの親子図書館見学ツアーを行った。書庫を含むレンガ棟及びアーチ棟内の施設を、通常のツアーより平易な表現を用いて案内した。18歳以上44名、18歳未満47名の計91名の参加があった。

○夏休み小学生向けおはなし会

7月27日、8月3日、10日、17日、24日の午後3時から、夏休み親子図書館見学ツアー終了後に、おはなし会を実施した。計83名の参加があった。

○科学あそび 2017

8月23日、佐々木勝浩氏と佐々木久子氏（クリスタルハーモニー）を講師として、「科学あそび2017：グラスでつくる音の世界ーグラスハープの秘密ー」を開催し、小学校4年生から高校1年生まで、21人が参加した。グラスハープは、グラスを指で擦って音を出す楽器で、音の出る仕組みなどについての解説のあと、参加者は実際にグラスハープを用いて演奏をした。また、児童サービス課職員が音にちなんだ本に関するブックトークを行った。



講師によるグラスハープの実演

○幼稚園・保育園・小学校向けの見学

幼稚園・保育園、小学校、特別支援学校向けに、それぞれのニーズに合わせて、手遊び・わらべうた、おはなし会、館内見学を組み合わせる見学会を行った。平成29年度は、計24件542名の参加があった。

○中高生向けの見学・調べもの体験プログラム

中高生が、短時間で“図書館における調べもの”を体験できる、「調べもの体験プログラム」は中学生向けの3コース、高校生向けの3コース、計6つのコースで実施した。平成29年度は館内見学29件261名、調べもの体験プログラム34件504名の参加があった。

※<http://www.kodomo.go.jp/use/tour/youth.html>

○中高生向け講演会「教科書をおいて図書館へ」

1月21日、芳沢光雄氏（桜美林大学リベラルアーツ学群教授）を講師として、中高生向け講演会「教科書をおいて図書館へ！ 授業の外側にある数学のはなし」を開催し、50名（うち、中高生24名）の参加があった。



講演会の様子

2.2 子どものための連携イベント

上野公園内に所在する近隣文化機関との連携により、読書に親しむきっかけとなるよう、子ども向けのイベントを実施した。

○フランスの絵本作家による子ども向けワークショップ

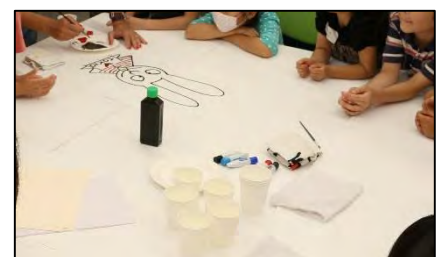
6月25日、フランス大使館との共催で、小学生を対象に、フランスの絵本作家によるワークショップを次のとおり開催した。39名の参加があった。

講師：ステファニー・ブレイク氏 対象：小学1年生から3年生まで

参加者 19名

講師：オリヴィエ・タレック氏 対象：小学3年生から6年生まで

参加者 20名



ワークショップの様子

○子どものための音楽会

10月29日、公益財団法人東京都歴史文化財団東京文化会館との共催で、「まちなかコンサート～芸術の秋、音楽さんぽ～」の一環として行った。午後1時及び午後3時から40分ずつ開催し、計280名が参加した。子どもが親しみやすい曲を選んで弦楽四重奏の演奏を行った。演奏終了後、国際子ども図書館職員が音楽や楽器についての児童書5冊を紹介した。



音楽会の様子

○展示会関連ワークショップ

「絵巻の世界へようこそ—巻き物作りを楽しもう！」

11月11日、展示会「日本の絵本の歩み—絵巻から現代の絵本まで」関連イベントとして、平河智恵氏（装こう文化財修理技術者）のワークショップ「絵巻の世界へようこそ—巻き物作りを楽しもう！」を開催した。子ども9名の参加があった。



ワークショップの様子

○カナダは150歳！絵本で知る「カナダってどんな国？」

11月12日、カナダ建国150周年を記念して、在日カナダ大使館との共催により、カナダやカナダの絵本を紹介するイベント及び関連展示を開催した。イベントには106名の参加があった。



国際子ども図書館職員による絵本の紹介

○Museum Start あいうえの：

あいうえのファミリー「うえの！ふしぎ発見」アーティスト部

12月17日、東京都、東京都歴史文化財団東京都美術館、同アーツカウンシル東京及び東京藝術大学との共催により、平成29年度「Museum Start あいうえのプロジェクト」の一環として、標記ワークショップを開催した。ワークショップでは、講師のエレナ・トゥタッチコワ氏（東京藝術大学大学院博士課程）及び当館企画協力課職員の引率のもと当館を探検したのち、当館内及び上野公園内で写真を撮影し、印刷した写真を利用して地図を作成した。小学校2年生から4年生までの子どもと保護者15組29名の参加があった。



国際子ども図書館探検の様子

○子どものための絵本と音楽の会『ぐるんぱのようちえん』

平成30年3月25日、東京・春・音楽祭実行委員会との共催により行った。絵本『ぐるんぱのようちえん』の朗読に合わせて、コントラバスとピアノの演奏が行われた。午後1時30分及び午後3時から30分ずつ行い、計139名が参加した。



演奏の様子

2.3 子ども向けの情報発信

「国立国会図書館キッズページ」の「よんでみる？」のコーナーにコンテンツを追加した。

※<http://www.kodomo.go.jp/kids/index.html>

3. 子どもの本のミュージアムとしての活動



児童書の持つ魅力を広く一般に紹介することを目的に、児童書に関する展示会を開催している。国際子ども図書館が主催する企画展示のほか、日本国際児童図書評議会（JBBY）など他機関から資料を借用して実施する巡回展示、共催による展示などがある。平成 29 年度は、展示会「絵本で知る世界の国々」、「世界をつなぐ子どもの本」、「日本の絵本の歩み」、「子どもを健やかに育てる本 2017」、「オランダの金の筆と銀の筆」を開催した。

3.1 館内展示

○絵本で知る世界の国々—IFLA からのおくりもの

レンガ棟 3 階本のミュージアムにおいて、4 月 11 日から 5 月 31 日まで計 39 日開催し、入場者数は 5,301 名であった。展示資料は、国際図書館連盟（IFLA）の「絵本で世界を知ろうプロジェクト」により集められて当館に寄贈されたものである。43 の国や地域の図書館員が選んだ、その国の代表的な絵本 365 冊を手にとって見られるよう展示した。

○世界をつなぐ子どもの本—2016 年国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト図書展

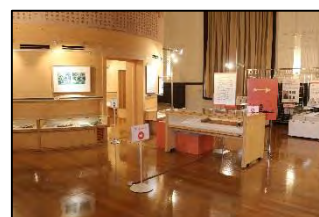
レンガ棟 3 階本のミュージアムにおいて、8 月 1 日から 20 日まで計 16 日開催し、入場者数は 5,591 名であった。資料は国際児童図書評議会（IBBY）の日本支部である日本国際児童図書評議会（JBBY）から借用し、2016 年の国際アンデルセン賞受賞者の著作、IBBY オナーリストの作品及びその邦訳書、合わせて約 200 冊を手にとって見られるよう展示した。



展示会場の様子

○日本の絵本の歩み—絵巻から現代の絵本まで

ちひろ美術館（いわさきちひろ記念事業団）との共催で、レンガ棟 3 階本のミュージアムにおいて、11 月 1 日から 30 日まで計 23 日開催し、入場者数は延べ 9,900 人（1 日平均 430 人）であった。また当館及びちひろ美術館のスタッフによるギャラリートークを計 6 回開催し、参加者は 231 名であった。



展示会場の様子

※http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10978697_po_geppo1711.pdf?contentNo=1#page=17

（国立国会図書館月報 679 号中の展示会解説記事へ移動します。）

○子どもを健やかに育てる本 2017—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）

レンガ棟 3 階本のミュージアムにおいて、平成 30 年 1 月 23 日から 2 月 10 日まで計 17 日開催し、入場者数は 2,436 名であった。厚生労働省子ども家庭局との共催で、平成 28 年度に厚生労働省社会保障審議会が推薦した図書 32 作品を手にとって見られるよう展示した。



展示会場の様子

○オランダの金の筆と銀の筆—子どもの本の世界

レンガ棟3階本のミュージアムにおいて、平成30年3月6日から開始した。世界の国・地域をテーマとした展示会の一環として、当館所蔵オランダ・ベルギーで刊行された児童書とその翻訳書・関連書を中心に展示した。



国際子ども図書館レンガ棟3階ラウンジの撮影スポットの様子

○資料室の小展示

児童書研究資料室では、利用者の興味・関心を深める一助とするため、当館開催展示会に関連した小展示を3回実施した。また、当館所蔵外国刊行資料から、カエルをテーマに36か国23の言語の児童書を紹介した「カエルの本」の小展示と、海外の児童文学賞受賞作品をテーマとして小展示を2回、調べものに役立つ小展示を1回実施したほか、平成28年に日本国内の主要な児童文学賞を受賞した作品及び読書活動推進コーナーにおいて児童サービスの基本資料を通年で展示した。



小展示「海外の児童文学賞受賞作品〜タイ」

○児童書ギャラリーの小展示

児童書ギャラリーでは、明治から現代までの児童文学史と絵本史の流れにより親しむことを目的に、特定の作家や画家に関する小展示を「作家・画家コーナー」で行っている。平成29年度は「谷川俊太郎」（前半）と「石井桃子・瀬田貞二」（後半）を紹介した。

○子どものへや・世界を知るへやの小展示

子どものへやでは季節や子どもの興味を引くテーマで小展示を行い、子どもたちが何度訪れても楽しめる工夫をしている。平成29年度は7回行った。世界を知るへやでは「IFLA 絵本で世界を知ろうプロジェクト」など4種類の小展示を常設している。



小展示「楽しい夏」

○調べものの部屋の小展示

調べものの部屋では、毎月テーマを決め、入口のスタンドを利用して10冊程度の本を紹介するウェルカム展示を行った。また、近隣の施設で行われている展示会に合わせたテーマに関連小展示を12回行った。

3.2 電子展示会

○日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み（英語版）の公開

電子展示会「日本の子どもの文学」の英語版のページを平成28年度に新規作成し、4月21日公開した。

※<http://www.kodomo.go.jp/jcl/e/index.html>



日本の子どもの文学（英語版）トップページ

4. 内外諸機関との連携・協力、広報活動等

国際子ども図書館は、国内外の図書館関係機関又は団体と密接に協力しながら、主に「子どもに本を手渡す大人」への支援を通じて、子どもの読書活動を推進している。平成29年度は、各種団体との連携により、日本、フランスの絵本作家、イギリスの児童書研究者、ドイツ・ミュンヘンの国際児童図書館長等を当館に招き、講演会や子ども向けワークショップを実施した。岩手県教育委員会・岩手県立図書館との共催に

より、シンポジウムと学校訪問を実施した。加えて、密接な連携を推進するため、関係機関との懇談・交流の場を設け意見交換・情報共有を行った。

4.1 講演会

○講演会「私子ども時代に出会った本―志茂田景樹」

4月16日、日本ペンクラブとの共催により作家の志茂田景樹氏の講演会を開催し、78名が参加した。講師は、自らの絵本の読み聞かせ活動の背景にどのような読書体験があったかを語り、読み聞かせの実演も行った。



講演会の様子

○上野の森親子フェスタ講演会「人との出会い・絵本の誕生」

(内田麟太郎氏、西村繁男氏)

5月5日、上野の森親子フェスタ運営委員会との共催により、上野の森親子フェスタ2017の一環として行った。講演会は内田麟太郎氏と西村繁男氏の対談形式で、共同での絵本の創作について語った。会場には両氏の作品約40点を展示し、参加者は102名であった。



講演会の様子

○ステファニー・ブレイク氏講演会

6月24日、フランス大使館との共催で、フランスの絵本作家ステファニー・ブレイク氏による講演会「ステファニー・ブレイクのアトリエで」を開催した。講演は金柿秀幸氏（株式会社絵本ナビ代表取締役社長）との対談形式で行われ、ブレイク氏は絵本執筆の経緯や創作過程、読み聞かせ等について語った。参加者は106名であった。

○キャサリン・バトラー博士講演会

7月8日、イギリスの児童文学研究者であるキャサリン・バトラー博士（イギリス・カーディフ大学上級講師）による講演会「日本のアニメに描かれたイギリス：真実、虚構、ファンタジー」を開催した。バトラー博士は、18-19世紀イギリス児童文学における「日本」を紹介するとともに、現代日本人にとっての「イギリス」の表象を近年のアニメ作品から論じた。通訳は、菱田信彦氏（川村学園女子大学教授）が担当した。参加者は18歳未満1名を含め111名であった。



講演会の様子

○岩手県教育委員会・岩手県立図書館共催シンポジウム及び学校訪問

被災地復興支援の一環として、9月24日、岩手県教育委員会及び岩手県立図書館との共催で、岩手県民会館中ホールを会場とし、アーサー・ビナード氏（詩人・随筆家・翻訳家）、柏葉幸子氏（児童文学作家）、濱野京子氏（児童文学作家）をパネリストに、野上暁氏（児童文学・文化評論家、編集者、日本ペンクラブ常務理事）をコーディネーターに迎えて、児童文学の観点から震災について考えるシンポジウムを実施した。参加者は114名であり、好評であった。翌25日には、被災した岩手県立高田高等学校（陸前高田市）を訪問し、図書委員会委員の生徒19名を対象とし、アーサー・ビナード氏による詩作の授業を実施した。



シンポジウムの様子

○いま、カナダの子どもの本は？

11月18日、日本ペンクラブとの共催により、白井澄子氏（白百合女子大学人間総合学部児童文化学科教授）の講演会「いま、カナダの子どもの本は？」を開催した。93名の参加があった。



講演会の様子

○展示会関連講演会「江戸の絵本〈草双紙〉の世界」（木村八重子氏）

11月5日、展示会「日本の絵本の歩み—絵巻から現代の絵本まで」関連イベントとして、元金城学院大学教授・草双紙研究者である木村八重子氏の講演会「江戸の絵本〈草双紙〉の世界」を開催した。114名の参加があった。



講演会の様子

○講演会「子どもの本よ、世界へ届け！—ミュンヘン国際児童図書館の目指すもの」

平成30年2月25日、クリスチアーネ・ラーベ博士（ミュンヘン国際児童図書館長）の講演会「子どもの本よ、世界へ届け！—ミュンヘン国際児童図書館の目指すもの」を開催した。ラーベ博士は、世界の児童文学の振興及び本や言葉を介して子どもの国際理解を推進するミュンヘン国際児童図書館の多様な活動について紹介した。18歳未満2名を含め138名の参加があった。



講演会の様子

※http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11095325_po_geppo1806.pdf?contentNo=1#page=26

（国立国会図書館月報 686号中の展示会解説記事へ移動します。）

4.2 広報活動

○上野ミュージアムウィーク 2017 ガイドツアー

上野ミュージアムウィークは、国際博物館の日である5月18日を中心とする前後1週間、上野の文化施設が無料入館日を設定する等のイベントを行う期間である。当該期間中の5月9日、11日、16日、18日の14時から1時間程度、関連イベントとして国際子ども図書館ガイドツアーを実施した。計28名が参加した。

○教員のための博物館の日

7月28日、国立科学博物館で行われた教員のための博物館の日に、ブースを出展し、学校教員や学校司書等56名に対して、学校図書館セット貸出しを中心に国際子ども図書館の事業や活動を紹介した。



ブース展示の様子

○全国図書館大会出展

10月13日、国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた第103回全国図書館大会に国立国会図書館として出展し、「学びの場で活用できるサービス」をテーマにポスター展示及び資料配布を行い、ブースに訪れた参加者に対し、調べもの体験プログラムについて紹介した。また、10月11日は関連行事として、国際子ども図書館見学会を2回実施し、合わせて31名が参加した。

○図書館総合展出展

11月7～9日にパシフィコ横浜で行われた第19回図書館総合展において、来場者に紹介パンフレット134部を配布し、業務概要を説明した。

4.3 関係者会議

○平成 29 年度子どもの本と読書に関する懇談会

平成 30 年 1 月 29 日に、「平成 29 年度子どもの本と読書に関する懇談会」を開催した。これは、平成 15 年度から開催してきた国際子ども図書館連絡会議について、新館増築を契機にその在り方の見直しを行い、国際子ども図書館の活動についての報告と意見聴取から、相互の活動報告及び児童サービス分野で関心の高いテーマについての意見交換を主な目的とした会議に変更したものである。本年度のテーマを「障害児・障害者に対するサービス等の取組の現状と課題」とし、報告及び懇談を行った。大阪国際児童文学振興財団等 14 機関・団体から 24 名が参加した。

4.4 見学・案内

○議会関係者向けの案内

平成 29 年度は、地方自治体・地方議会関係者 8 件 39 人の案内を行った。

○一般向けの案内

個人向けのガイドツアーを毎週火・木曜日に行っているほか、団体向けの見学を行っている。平成 29 年度は、個人向け 81 件 560 名、団体向け 41 件 826 名の参加があった。

○図書館向けの案内

一般の図書館職員や小中学校の図書室司書等、図書館関係者向けの見学案内を行っている。平成 29 年度は、計 22 件 327 名の参加があった。

○外国人向けの案内

外国公館関係者、海外の図書館関係者等を含む、外国人向けの見学案内については、平成 29 年度に 25 件 197 名の参加があった。

○子ども向けの案内

2.1(10 ページ)参照

4.5 刊行物

○『国際子ども図書館の窓』第 17 号 (2017 年 9 月)

※http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10956068_po_2017-mado.pdf?contentNo=1&alternativeNo

○国際子ども図書館メールマガジン 123~142 号 (2017 年 4 月~2018 年 3 月)

※<http://www.kodomo.go.jp/about/mailmagazine/2017/index.html>

○児童文学連続講座講義録

『平成 28 年度児童文学連続講座講義録「子どもに本を手渡すために—児童文学基礎講座」』

※http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10978240_po_H28-full.pdf?contentNo=1



平成 29 年 4 月から 30 年 3 月までの主なできごと

平成 29 年

- 4 月 11 日 展示会「絵本で知る世界の国々—IFLA からのおくりもの」(～5 月 31 日)
- 4 月 16 日 講演会「私が子ども時代に会った本—志茂田景樹」
- 4 月 21 日 日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み(英語版)の公開
- 5 月 5 日 上野の森親子フェスタ講演会「人との出会い・絵本の誕生」(内田麟太郎氏、西村繁男氏)
こどもの日おたのしみ会
- 6 月 24 日 講演会「ステファニー・ブレイクのアトリエで」(ステファニー・ブレイク氏、金柿秀幸氏)
- 6 月 25 日 「フランス絵本作家とのワークショップ」(ステファニー・ブレイク氏、オリヴィエ・タレック氏)
- 7 月 8 日 講演会「日本のアニメに描かれたイギリス: 真実、虚構、ファンタジー」(キャサリン・バトラー氏)
夏休み読書キャンペーン 2017 (～9 月 3 日)
- 7 月 27 日 夏休み小学生向けおはなし会(7 月 27 日、8 月 3 日、10 日、17 日、24 日とも)
夏休み親子図書館見学ツアー(7 月 27 日、8 月 3 日、10 日、17 日、24 日とも)
読書と体験の子どもキャンプ
- 7 月 29 日 「教員のための博物館の日」に参加
- 8 月 1 日 展示会「世界をつなぐ子どもの本—2016 年国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト図書展」(～20 日)
- 8 月 23 日 科学あそび 2017「グラスでつくる音の世界—グラスハーブの秘密—」
- 9 月 15 日 平成 28 年度児童文学連続講座講義録刊行
- 9 月 24 日 シンポジウム「子どもの本の視点から震災を振り返る」
- 9 月 25 日 岩手県立高田高等学校訪問
- 9 月 26 日 JLA 児童図書館員養成専門講座
- 9 月 29 日 『国際子ども図書館の窓』第 17 号刊行
- 10 月 13 日 全国図書館大会
- 10 月 29 日 子どものための音楽会
- 11 月 1 日 展示会「日本の絵本の歩み—絵巻から現代の絵本まで」(～30 日)
- 11 月 5 日 講演会「江戸の絵本〈草双紙〉の世界」(木村八重子氏)
- 11 月 6 日 国際子ども図書館児童文学連続講座「絵本はアート、絵本はメディア」(～7 日)
- 11 月 7 日 第 19 回図書館総合展に出展(～9 日)
- 11 月 11 日 ワークショップ「絵巻の世界へようこそ—巻き物作りを楽しもう!」(平河智恵氏)
- 11 月 12 日 カナダは 150 歳! 絵本で知る「カナダってどんな国?」
- 11 月 18 日 シリーズ・いま、世界の子どもの本は?(第 10 回)
講演会「いま、カナダの子どもの本は?」(白井澄子氏)
- 11 月 19 日 子どものための冬のおたのしみ会「ヤギの絵本の読み聞かせとヤギの飼育員さんのおはなし」
- 12 月 14 日 第 14 回レファレンス協同データベース事業フォーラム「中高生向けレファレンスサービスとレファ協」
- 12 月 17 日 Museum Start あいうえの「うえの! ふしぎ発見 アーティスト部」

平成 30 年

- 1 月 5 日 国立国会図書館検索・申込オンラインサービス(国立国会図書館オンライン)提供開始
- 1 月 21 日 中高生向け講演会「教科書をおいて図書館へ! 授業の外側にある数学のはなし」(芳沢光雄氏)
- 1 月 23 日 展示会「子どもを健やかに育てる本 2017—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財(出版物)」(～2 月 10 日)
- 1 月 29 日 子どもの本と読書に関する懇談会
- 2 月 12 日 国際子ども図書館ホームページリニューアル
- 2 月 25 日 講演会「子どもの本よ、世界へ届け!—ミュンヘン国際児童図書館の目指すもの」
(クリスチアーネ・ラーベ氏)
- 3 月 6 日 展示会「オランダの金の筆と銀の筆—子どもの本の世界」(～7 月 15 日)
- 3 月 12 日 児童サービス研究交流会「障害のある子どもたちへの図書館サービス—障壁をとりはらうために」
- 3 月 25 日 子どものための絵本と音楽の会『ぐるんぱのようちえん』

数字で見る！国際子ども図書館

平成 29 年度（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

（1）国際子ども図書館所蔵統計（平成 30 年 3 月 31 日現在）

資料区分		所蔵数		
資料 情報課	図書 (単位：点)	日本語 (*1)	298,300	
		外国語 (*2)	中国語・朝鮮語資料	104,037
			アジア言語資料 (中国語・朝鮮語資料以外)	21,402
			欧米言語資料	10,340
			計	72,641
	計	402,337		
	逐次刊行物 (単位：タイトル、 カッコ内は点)	国内雑誌	1,764 (94,493)	
		外国雑誌	187 (10,350)	
		計	1,951	
	非図書資料 (単位：点)	マイクロ資料 (マイクロフィルム、マイクロフィッシュ等)	38,000	
		映像資料 (ビデオディスク、ビデオカセット等)	8,947	
		録音資料 (オーディオディスク、カセットテープ等) (*3)	3,170	
		機械可読資料 (光ディスク等)	6,769	
		楽譜資料	283	
		カード式資料 (カルタ等)	11,414	
		静止画資料 (紙芝居等)	21,212	
		点字・大活字資料	1,880	
	計	91,675		
	開架閲覧用資料 (単位：点) (*4)		18,287	
	児童書ギャラリー	1,998		
貸出用資料 (単位：点)		365		
児童 サービス課	開架閲覧用資料 (単位：点)		29,393	
		子どものへや・世界を知るへや	17,598	
		調べものの部屋	11,795	
	貸出用資料 (単位：点)		4,967	

*1 児童書関連書（2006 年 9 月以前選書分 12,342 点）を含む

*2 児童書関連書（5,668 点）を含む。言語別の所蔵数の計は業務基盤システムによる採取のため、外国語の所蔵数と一致しない場合がある。

*3 教師用指導書のみ

*4 日本語の児童書関連書（2006 年 10 月以降選書分）と児童関連誌、児童書ギャラリー用資料

(2) 来館者統計

開館日 (日)	285
来館者 (人)	141,201
(うち 18 歳未満)	(28,921)

(4) 資料出納統計

国会サービス (点)	177
児童書研究資料室 (点)	24,430

(3) 各室利用統計

児童書研究資料室	開室日 (日)	284
	利用者 (人)	10,098
子どものへや・ 世界を知るへや	開室日 (日)	285
	利用者 (人)	100,565
児童書ギャラリー	開室日 (日)	285
	利用者 (人)	41,878
調べものの部屋	開室日 (日)	285
	利用者 (人)	46,409

(5) 複写サービス統計

(対象：国会サービス)

紙	件	6
	枚	182
プリントアウト	件	0
	枚	0
マイクロ	件	0
	フィルム (コマ)	0
	フィッシュ (枚)	0

(対象：一般)

紙	件	5,676
	枚	31,440
プリントアウト	件	789
	枚	23,515
マイクロ	件	0
	フィルム (コマ)	0
	フィッシュ (枚)	0

(6) 資料貸出統計

(対象：行政・司法各部門)

相互貸出し (点)	58
(対象：一般)	
図書館間貸出し	点 221
学校図書館セット貸出し	件 188
	点 7,862
展示会出品資料貸出し	件 5
	点 1,461

(7) レファレンスサービス統計①

(対象：一般)

文書回答	処理文書 (通)	67
	処理 (件)	103
電話回答	受理 (件)	1,259
	(うち 18 歳未満)	(1)
	処理 (件)	1,611
	(うち 18 歳未満)	(1)
口頭回答	受理 (件)	13,538
	(うち 18 歳未満)	(1,653)
	処理 (件)	15,601
	(うち 18 歳未満)	(1,828)

(7) レファレンスサービス統計②

(対象：国会サービス)

(対象：行政・司法各部門)

文書回答	処理文書（通）	0
	処理（件）	0
電話回答	受理（件）	0
	処理（件）	0
口頭回答	受理（件）	0
	処理（件）	0
調査局経由※	処理（件）	0

文書回答	処理文書（通）	0
	処理（件）	0
電話回答	受理（件）	0
	処理（件）	0
口頭回答	受理（件）	0
	処理（件）	0

※調査及び立法考査局で受付後、回付されたもの。

(8) 参観・見学統計

国会議員、前・元議員		件	0
		人	0
その他の国会関係者		件	0
		人	0
行政・司法		件	1
		人	2
国内	個人	件	81
		人	560
		（うち18歳未満）	(29)
	団体	件	129
		人	2,155
		（うち18歳未満）	(1,307)
	図書館関係者	件	22
		人	327
		（うち18歳未満）	(2)
	地方自治体・地方議会関係者	件	8
		人	39
		（うち18歳未満）	(0)
海外（外国公館関係者を含む）		件	25
		人	197
		（うち18歳未満）	(29)

(9) 国際子ども図書館ホームページアクセス統計

http://www.kodomo.go.jp/以下の全コンテンツ	ページビュー（件）	2,366,421
トップページ	トップページへのアクセス（件）	339,432

国際子ども図書館利用案内

国際子ども図書館ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>

電話 03 (3827) 2053 (代表) 03 (3827) 2069 (録音による利用案内)

★来館利用 ホームページ > 利用案内

問合せ先 : 企画協力課

開館時間 : 9:30~17:00 資料請求 : 9:30~16:30 (児童書研究資料室)

複写受付 : 10:00~16:00 (後日郵送複写のみ 16:30 まで) 複写製品引渡し : 10:30~12:00、13:00~16:30

休館日 : 月曜日、国民の祝日・休日 (こどもの日は開館)、年末年始、毎月第3水曜日

所蔵資料 : 国内刊行児童図書・雑誌、外国語の児童図書・雑誌、児童書関連図書・雑誌等

※資料の利用は館内のみ。館外への帯出はできません。

★レファレンス・資料案内 ホームページ > 本・資料を探す > レファレンス・サービス

問合せ先 : 資料情報課情報サービス係

申込方法 : 来館、文書 (図書館経由)、電話

※児童書・児童文学、児童図書館活動等に関する問合せにお答えします。

※資料を直接確認しなければならないなど時間を要する調査及び聞き間違いが生じやすい外国語文献についてのレファレンスなどは文書でお申込みください。

★資料の複写 (有料) ホームページ > 利用案内 > 複写サービス

問合せ先 : 資料情報課情報サービス係

申込方法 : 来館、NDL-ONLINE 経由 (登録利用者・機関のみ)

郵送 (登録利用者・機関のみ)

★資料の図書館間貸出し ホームページ > 利用案内 > 図書館間貸出し

問合せ先 : 資料情報課情報サービス係

※「図書館間貸出制度」に加入している図書館のみ利用できます。

※雑誌や昭和25年以前刊行の図書など貸出しができない資料もあります。

★見学・体験 (調べもの体験プログラム) ホームページ > 利用案内 > 見学・体験

問合せ先 : 企画協力課広報係 (一般向け)

児童サービス課 (幼稚園・保育園・小学生向け・中高生向け)

★学校図書館セット貸出し ホームページ > 子どもの読書活動推進 >

国際子ども図書館における実践 > 学校・学校図書館へのサービス > 学校図書館セット貸出し

問合せ先 : 児童サービス課児童サービス企画係

国際子ども図書館の窓 第18号 2018.10

2018年10月31日発行

発行 国立国会図書館

編集 国立国会図書館国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49

電話 03(3827)2053(代表) FAX 03(3827)2043

本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に国際子ども図書館企画協力課広報係に連絡してください。

The Window
the journal of the International Library of Children's Literature
No.018 October 2018

Contents

【ILCL activity report】	4
【List of events and activities; April 2017 - March 2018】	18
【ILCL in figures】	19
【ILCL user guide】	22

International Library of Children's Literature,
National Diet Library,
Tokyo